

慶良間諸島国立公園

指 定 書

及び

計画書

平成26年3月5日

環 境 省



慶良間諸島国立公園

指 定 書

平成26年3月5日

環 境 省



## 目 次

1	指定理由	1
2	地域の概要	3
	(1) 景観の特性	
	ア 地形・地質	3
	イ 植生・野生動植物	5
	ウ 海域	6
	エ 自然現象	7
	オ 人文景観	7
	(2) 利用の現況	8
	(3) 社会経済的背景	
	ア 土地所有別	10
	イ 人口及び産業	10
	ウ 権利制限関係	12
3	公園区域	15



## 1 指定理由

沖縄県慶良間諸島地域（以下「本地域」という。）は、多様なサンゴを擁するサンゴ礁生態系や我が国の亜熱帯地域においては稀な多島海景観をはじめとする多様な海域景観を有し、陸と海が連続して一体となった雄大な景観を有する地域であることから、国立公園として指定するものである。

すなわち、多様なサンゴ礁生態系、ザトウクジラの繁殖海域、ケラマブルーと称される透明度の高い海域、地殻変動に伴う沈降によって形成された多島海、サンゴを主体とした白い砂浜等、海から陸までの連続した多様な景観は我が国を代表する傑出したものであり、それらと一体的な、悠久の大地の歴史を刻む地形地質とその上に成り立つ島しょ亜熱帯生態系や、長い歴史の中で育まれた民俗文化が色濃く反映された人文景観を有する地域でもある。本地域の海域では、海産動物は脊椎動物類が 362 種、造礁サンゴを含む無脊椎動物類が 2,090 種確認されている。特に造礁サンゴについては、14 科 59 属 248 種が確認されており、日本で確認される造礁サンゴのうち約 62% が生息していることになる。5 月から 9 月にかけてサンゴの産卵が観察され、一部の沖合に流れ出て生き残った幼生は、沖縄島の西海岸に流れ着き、海底に着生することが確認されている。このように、本地域のサンゴ礁は、沖縄島へのサンゴの幼生の供給源としても重要である。

冬期は毎年ザトウクジラが繁殖のために本地域の海域を訪れる。1 月中旬から 3 月中旬にかけて目撃数がピークとなる。これまでザトウクジラ以外にも、ミンククジラ、マッコウクジラ、シロハイルカ、ハンドウイルカ、オキゴンドウ等が確認されるなど、他の鯨類にとっても生息域となっている。また、大小 30 余りの島々があり、切り立った海食崖や湾入の多いリアス海岸を伴う、亜熱帯地域では特異な多島海となっている。これは、うるま変動と呼ばれる地殻変動によって、今の慶良間諸島が沈降した結果、沖縄島と慶良間諸島の間に海が広がり、山脈の頂であった慶良間諸島が現在のような小さな島の集まりになったとされている。海岸線は変化に富み、切り立った断崖と、サンゴやホシズナのかげらでできた遠浅の白い砂浜が広がる。こうした砂浜では、アオウミガメの産卵が確認されている。

気候は、亜熱帯海洋性気候帯に属し、我が国では特異な植物相を保持している。ビロウ林、リュウキュウマツ林等が発達しており、およそ 620 種以上の自生植物が確認されている。樹種は 46 種確認されており、この多様性が本地域の森林の特徴である。本地域の森林は、全体的に樹高が低く、オキナワハイネズ等の矮小化した特異な風衝地に特有の植生がみられる。また、慶良間諸島には、リュウキュウヤマガメ、マダラトカゲモドキ、イボイモリ、ホルストガエル等の希少な生物が生息している。また、通称チービシと呼ばれる慶伊瀬島は、アジサシ類の集団繁殖地であり、多くの渡り鳥も確認されていることから、鳥類の重要な生息地となっている。

地質学的には、沖縄島北部の主に中生代の国頭層群の黒色千枚岩や緑色片岩が慶良間諸島まで連続していることから、沖縄島の骨格はもともと沖縄島北部から慶良間諸島につながっており、現在のように沖縄島南部につながったのは 10 万年前であったと考えら

れている。地質構造上は、中生代の国頭累帯に属し、砂岩や結晶片岩類を主基盤岩としており、沖縄島の本部半島や石垣島の一部と似た比較的地質年代が古い地域である。このように、本地域は地形・地質上も特徴的であり、こうした地質が多様な陸域の生物相や海域の生態系を支えている。

さらに、本地域には、御嶽、貝塚や史跡・遺跡、戦跡、文化財などが数多くある。生活は海と大変関わりが深く、各集落では大漁・豊漁等を祈願した祭祀、獅子舞や大太鼓といった伝統芸能活動等が残っている。琉球王朝時代には、沖縄島から中国への唐船貿易の中継地として栄えた歴史がある。また、カツオ漁の発祥の地でもあり、明治時代には、「ケラマ節」と呼ばれる鯉節が高く評価され、日本最大のカツオ漁の1つに発展した。その後、第二次世界大戦末期に本地域は沖縄戦における米軍最初の上陸地となり、戦争の悲惨な歴史をもつ地域である。

以上より、本国立公園のテーマを、「美ら海慶良間—海と島がつくるケラマブルーの世界」とし、サンゴ礁、多島海、海食地形、海食崖、砂浜、岩礁、鯨類の繁殖海域の景観要素から成る風致景観を保全し、これらの適切な利用を推進するものである。

なお、本地域は、昭和53年12月9日に島々と数多くの岩礁からなる島しょ群であり、沖縄随一の多島海景観美を呈することから、優れた海中景観や亜熱帯植物景観を有する区域と併せて、沖縄海岸国定公園に編入指定された。

その後、平成19年3月の国立・国定公園の指定及び管理運営に関する提言において「干潟、藻場、サンゴ礁等特有な景観に対する関心の高まりにより、眺望的風景として海面のみならず、海域そのものに対する風景の評価が高まっており、南西諸島のサンゴ礁海域などについて、国立・国定公園として評価を進めることが必要である」とされた。また、本地域は、国立・国定公園総点検事業（平成22年）において、従来からの多島海景観に係る評価に加え、高密度に発達したサンゴ礁、ザトウクジラの繁殖海域といった沿岸から海域にかけて多様な生態系、透明度の高い優れた海域景観、砂浜の景観等の多様な海域景観を有する我が国を代表する傑出した地域として評価され、新規の国立公園指定を行う候補地として選定されたものである。



## 2 地域の概要

本地域は、沖縄県那覇市の西方約 40 キロメートルの地点にあって、東経 127° 13′ ~127° 29′、北緯 26° 05′ ~26° 16′ の間に位置し、大小 30 余りの島々と数多くの岩礁からなる島しょ群である。基礎的な地方公共団体は、渡嘉敷村と座間味村の 2 村である。

渡嘉敷村は、主に渡嘉敷島 (1,531ha)、前島 (160ha)、拝島及び中島(18ha)、ハテ島(14ha)、儀志布島(49ha)、黒島(27ha)、ウン島(26ha)、離島(10ha)、城島(11ha)、神山島(29ha)、ナガンヌ島(29ha)、クエフ島(2ha)からなり、慶良間諸島のほぼ東半分を占め、前慶良間と呼ばれている。有人島は、渡嘉敷島、前島で、村全体の面積は 1,918ha である。渡嘉敷島は、南北 9km、東西 2.8km、周囲 25km、面積 1,531ha の南北に細長い島で、中央部の阿良利山 (210.5m) から北側の赤間山 (227.3m) にかけて険しい山々が連なる丘陵地帯であり、その間にある東側の低地に渡嘉敷集落が広がっている。島の南側にかけて徐々に低くなる地形で、中央西側渡嘉敷は山々に囲まれた入江のビーチに面した渡嘉志久集落があり、その南側に開けたビーチの近くには阿波連集落がある。

座間味村は、主に座間味島(666ha)、安室島(73ha)、安慶名敷島(10ha)、嘉比島(13ha)、伊积加积島(2ha)、阿嘉島(382ha)、慶留間島(115ha)、外地島(83ha)、モカラク島(4ha)、奥武島(5ha)、屋嘉比島(126ha)、久場島(155ha)からなり、後慶良間と呼ばれている。有人島は座間味島、阿嘉島、慶留間島の 3 島で、村全体の面積は 1,690ha であり、ほとんどが森林地域となっている。村の中心地である座間味島には、島の中心部に座間味、東側に阿佐、西側に阿真の 3 つの集落が点在している。座間味島の南 4.7km に位置する阿嘉島は、集落が島の南側の平坦地にあり、島の南端から阿嘉大橋 (平成 10 年開通) で慶留間島とつながっている。慶留間島は、島の中央から西寄りに約 160m の山地が続きピロウの原生林が広がっており、島全体が一つの山塊のような地形となっている。また、慶留間島と橋で結ばれた外地島には慶良間空港がある。

慶良間諸島は、亜熱帯海洋性気候帯に位置し、我が国では小笠原諸島と並び特異な生態系を保持している。周辺海域は、透明度が高く、海岸部の大部分でサンゴ礁が発達しており、日本有数の海域景観を有するとともに、アオウミガメの産卵やザトウクジラ繁殖地域としても重要である。

### (1) 景観の特性

#### ア 地形・地質

地形は、全体的に丘陵地形をなし、山地が海岸まで押し迫り、海岸線の大部分は歩行が困難である。海岸から直接急斜面をもって山地部をつくっている。崖が多く、湾入の多いリアス海岸を持つ多島海となっている。内海に面する海岸は、砂浜を主体とする緩やかな地形であるが、外海側では急勾配で基岩が露出し、海食地形が発達している。100~200m に達する海食断崖を形成している場所もあり、雄大な景観を呈している。海域は、裾礁が著しく発達し、豊富な魚類相を支えている。

20～60 万年前の沖縄周辺海域には、大きな規模のサンゴ礁が広がっており、現在それは琉球石灰岩として地層の中に残っている。この琉球石灰岩層は、慶良間諸島では海底 80 m 前後の所にある。うるま変動という地殻変動によって、慶良間諸島は沈降した結果、沖縄島と慶良間諸島の間に海が広がり、山脈の頂であった慶良間諸島が現在のような小さな島の集まりになった。そのため、慶良間諸島の内海は、沈降海岸地形を示し、多島海景観を有している。

地層に含まれるスギやヒノキの化石の分布から、150 万年以上前の時代には、慶良間諸島は沖縄島北部まで連なる 1500m を超える山脈の一部であったと考えられている。地質学的には、沖縄島北部の主に中生代の国頭層群の黒色千枚岩や緑色片岩が慶良間諸島まで連続していることから、沖縄島の骨格はもともと沖縄島北部から慶良間諸島につながっており、現在のように沖縄島南部につながったのは 10 万年前であったと考えられている。地質構造上は、中生代の国頭累帯に属し、砂岩や結晶片岩類を主基盤岩としており、沖縄島の本部半島や石垣島の一部と似た比較的地質年代が古い地域である。海岸には、サンゴのかけらやホシズナと呼ばれる有孔虫の遺骸等でできた白い砂の砂浜が広がる。

渡嘉敷島は、慶良間諸島最大の島で、島の長軸である南北に細長く広がり、全体になだらかな丘陵地形をなしている。島の最高海拔は赤間山の 227.3m と低いが、山地が海岸まで押し迫り、海岸線の多くは歩行が困難である。谷斜面は基岩が露出し、急勾配で小段丘状をなしている。水量は主要な谷部を除いて少ない。このため、河川の発達がなく、渡嘉敷集落へ流れる小河川等小規模なものがみられるのみである。海岸平地は、渡嘉敷、渡嘉志久、阿波連の各集落にみられる。砂浜は、入り江となった各集落の海岸や島の北西海岸に発達している。阿波連周辺では、砂岩からなる断崖があり、断崖には特徴的な風衝地に特有の植生が発達し、雄大な景観をつくりだしている。

座間味島は、島の長軸が東西にのび、天然の良港ともいえるべき入り江が島の随所にみられ、島の形を複雑にしている。山系は、大きく二つに区分される。島の北東海岸近くの海拔 160.7m の地点から 123m の地点を結ぶ山系と島の中央部の海拔 143.5m を頂上とする山地を中心に島の南側（海拔 124m の地点）と西側（海拔 87m の地点）へつながる山系である。これらの二つの山系は、かつて座間味島が二つの島より成り立っていたことを示唆するものと思われる。山地はいずれも島の北海岸に接近しているため、北海岸の大部分は断崖となり、島の南側は緩やかな斜面となっている。島の南側には、沖積土が堆積し、海岸平野や砂浜がよく発達している。集落は、島の南側の平野部に分散し、座間味、阿佐、阿真の各集落を形成している。

阿嘉島は、座間味村の中央部に位置し、やや菱形の島である。島の中央部には、北西から南北に走る山塊（海拔 193m の地点と 164.9m の地点を結ぶ山塊）が島の脊梁をなしている。そのため、島の大部分が急峻な斜面となり、耕作地は集落周辺の海岸段丘上に限られている。慶留間島は、ほぼ四角形の島で、島の中央部に海拔 157.4m を中心とする山塊があり、島全体が山地地形を示している。山塊の周辺部は急峻な斜面で頂上に向かうにつ

れて緩やかな台地状になっている。

#### イ 植生・野生動植物

慶良間諸島は、亜熱帯海洋性気候帯に位置し、我が国の中では特異な植物相を保持している。ビロウ林、リュウキュウマツ林等が発達しており、およそ 620 種以上の自生植物（帰化植物を含む。）が確認されている。樹種は 46 種確認されており、この多様性が本地域における森林の特徴である。本地域の森林は、全体的に樹高が低く、ハマヒサカキ、リュウキュウマツ、オキナワハイネズなどの矮小化した特異な風衝植生がみられる。本地域は、小島しょ地域のため、冬期の季節風による影響が大きく、林木の生長が著しく阻害される等自然的な環境・立地条件が極めて厳しい。特徴的な断崖とそこに発達した風衝地に特有の植生による景観は、本地域の特徴である。こうした特徴は、土地的極相として重要な価値を持つとともに、景観保全上も重要な意味を持つ。

渡嘉敷島の大部分をしめるリュウキュウマツ林は、島の景観を代表し、様々な植生型がみられる。海岸斜面や山地尾根部にリュウキュウチク林が発達する。島の北部にはスダジイ林や高木性のリュウキュウマツ林がみられる。一方、島の南部や海岸線は島の風衝景観を特徴づけるビロウ林、矮性マツ林及び常緑広葉低木林が広い面積にわたって生育している。ビロウがまとまって生育している場所もあり、大径木もみられる。海浜植生は貧弱で、わずかに砂浜や隆起サンゴ礁上の植物群落がみられる。

座間味島は、島の複雑な地形に応じて、種々の植生型がみられる。島の北部の急な崖状地には風衝地のリュウキュウマツ林が発達し、東側の丘陵地にはビロウ林がみられる。渡嘉敷島と同様に大部分はリュウキュウマツ林で被われている。海浜植生は、南側海岸に発達している。阿嘉島も大部分はリュウキュウマツ林で、山頂部にタブ林が発達する。島のまわりには、海浜砂丘が多く、海浜植物群落が発達している。慶留間島は、リュウキュウマツを主体に海岸風衝地のトゲイヌツゲ群落およびリュウキュウチク林やタブ林などが発達している。

慶良間諸島には、哺乳類ではクビワオオコウモリの亜種オリオオコウモリ、ニホンジカの亜種ケラマジカ、鳥類ではホントウアカヒゲ（絶滅危惧ⅠB類。環境省版レッドリスト平成 24 年（公表）による。以下同じ。）、カラスバト（準絶滅危惧）、は虫類ではリュウキュウヤマガメ（絶滅危惧Ⅱ類）、クロイワトカゲモドキの亜種マダラトカゲモドキ（絶滅危惧ⅠB類）、ハブ、両生類ではイボイモリ（絶滅危惧Ⅱ類）、ホルストガエル（絶滅危惧ⅠB類）、甲殻類ではオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ヤシガニ（絶滅危惧Ⅱ類）等が生息している。久場島、屋嘉比島、奥武島及びその付近の岩礁は、ベニアジサシ（絶滅危惧Ⅱ類）、コアジサシ（絶滅危惧Ⅱ類）、エリグロアジサシ（絶滅危惧Ⅱ類）等の海鳥の繁殖地となっている。

ケラマジカは、17 世紀の中頃に薩摩から慶良間に持ち帰られたと『琉球国由来記』に記されている。九州産のニホンジカに比べて体が小さく、頭骨や角も短小で体毛も少し暗

色を示し、九州産シカの変種とみられている。日本特有の動物で顕著な物及びその生息地として、「ケラマジカおよびその生息地（屋嘉比島、慶留間島）」が国指定の天然記念物として1972年に指定された。

また、座間味村の屋嘉比島（129ha）はカラスバト等の希少な鳥類が生息する場所となっていることから、平成6年に沖縄県の鳥獣保護区の特別保護地区として指定されている。また、慶伊瀬島（クエフ島、神山島、ナガンヌ島）は、通称チービシと呼ばれており、アジサシ類の集団繁殖地である。これまでに、ベニアジサシ、エリグロアジサシ、コアジサシが確認されているほか、ウミガメ類が数多く産卵のために上陸していることから、平成24年に沖縄県の鳥獣保護区として指定された。また、慶伊瀬島は多くの渡り鳥も確認されており、鳥類の重要な生息地となっている。

## ウ 海域

慶良間諸島の周辺海域は透明度が高く、高密度にサンゴ礁が発達し、日本有数の美しい海域景観を有している。平成17年11月にラムサール条約（正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」）湿地として登録され、この海域を将来にわたって保全し、そこから得られる恵みを維持しながら活用するワイズユースを推進している。

本地域では、テーブル状、枝状、角状、塊状等の造礁サンゴが高い密度で分布しており、248種（文献1）のサンゴが確認されている。サンゴ礁の総面積は、約66.4ha（文献2）で、このうち被度5%未満の群集が14%、被度5～50%の群集が79%、被度50%以上の群集が7%となっている（文献3）。特に、渡嘉敷島西岸には、テーブル状、枝状のミドリイシが著しく発達し、場所によっては75%以上（文献3）の被度で覆われている。周辺海域は、沖縄島のサンゴの幼生の供給源になっており、優れた海中景観ばかりでなく、学術的にも貴重な海域である。近年、オニヒトデの大発生やサンゴの白化等による影響を受けたが、地元住民による地道な活動等により、サンゴ礁が守られてきた経緯がある。

サンゴ礁は、生物種が豊富な生態系で、スズメダイ類やチョウチョウオ類、ベラ類などサンゴ礁特有の色彩豊かな多種多様な魚類が生息している。本海域では、海産動物は脊椎動物類が362種、造礁サンゴを含む無脊椎動物類が2,090種、海藻類が約220種確認されている（文献1、5）。渡嘉敷島のウラ海岸、儀志布島、黒島、前島などの海岸、座間味島の北側の海岸、外地島の海岸等の自然海岸では、夏には主にアオウミガメが産卵のために数多く上陸しており、ウミガメの産卵地として重要である。さらに、慶良間諸島周辺海域では1月～4月にかけて繁殖活動のためザトウクジラが訪れ、特に陸から7kmまでの海域では頻りに観察することができる。クジラの噴気や尾びれ、ブリーチなどを観察するホエールウォッチングが盛んである。このように、慶良間諸島周辺海域では年間を通して多様な海洋生物がみられる。

## エ 自然現象

本地域は、東経 127° 13' ~127° 29'、北緯 26° 05' ~26° 16' の間に位置し、亜熱帯海洋性気候を示している。年間平均気温は、23.2℃であり（統計期間平成 15 年～平成 22 年）、最も寒い 1 月でも平均気温が 17.3℃と年間を通じて温かい。年間降水量は 1879.4mm であり、梅雨時期や台風時期に集中している。台風の襲来が多く、平成 24 年の台風 17 号の際は、渡嘉敷村で最大瞬間風速 58.9 メートルを記録しており、毎年甚大な被害を受けているが、台風が来ない限り夏の海況は穏やかである。

海岸には、サンゴのかけらやホシズナと呼ばれる有孔虫の遺骸等でできた白い砂の砂浜が広がり、ケラマブルーと称される透明度の高い海とあいまって美しい景観をつくりだしている。

## オ 人文景観

本地域には、集落内の御嶽<sup>うたき</sup>、各貝塚や史跡・遺跡、戦跡、重要文化財などが数多くある。御嶽については渡嘉敷村と座間味村で合わせて 34 箇所ある。本地域の各集落には拝所があり、旧暦の 8 月 20 日頃に行われる海神祭（海御願）そのほか年中行事の際に漁業繁栄や航海安全が祈願されるなど、海が存在が人々の生活に深く根付いている。

また、慶良間諸島は、沖縄島から中国への唐船貿易の中継地であった。国の重要文化財（建造物）に指定された慶留間島の高良家は、重要な文化資源であり、船頭主家と呼ばれた旧家で、琉球王府時代末期に清への公用船の船頭職を務めた仲村渠親雲上<sup>なかにだかりべーちん</sup>によって、19 世紀後半に建築されたといわれている。さらに、生活は海と大変関わりが深く、各集落では大漁・豊漁等を祈願した祭祀（表 1）、獅子舞や太太鼓のような伝統芸能活動等が残っている。

明治 18 年には、沖縄におけるカツオ漁が座間味村で始まった。慶良間諸島の鯉節は県内外で高く評価され、「ケラマ節」の名声を内外に広めた。慶良間諸島は、日本最大カツオ漁の 1 つにまで発展し、集落には瓦葺きの家屋が次々と建つようになったが、その後衰退した。かつて、本地域の山々の薪木は、「キラマダムン」の商品名で那覇の人々の炊事場や瓦業者の燃料を提供し、古くは壺屋の陶器を焼き上げるのにも使用されていた。その後カツオ漁が盛んな時期には、「ケラマ節」をつくるために多くの薪が使われた。昭和 20 年代に沖縄戦で沖縄島南部に炊き出し用の薪を提供したのも慶良間諸島の山林である。こうした薪を提供するため、戦後も盛んにリュウキュウマツの植林が行われた歴史がある。

また、慶良間諸島は沖縄戦における米軍最初の上陸地である。渡嘉敷島で集団自決があった地は、戦後米軍のミサイル基地となった。その後、沖縄の本土復帰とあわせて返還され、昭和 47 年 5 月に米軍基地跡地平和利用のシンボルとして、「国立沖縄青少年交流の家」が設立された。同施設では、年間約 7 万人の利用者があり、平和学習や環境教育等のプログラムを実施している。

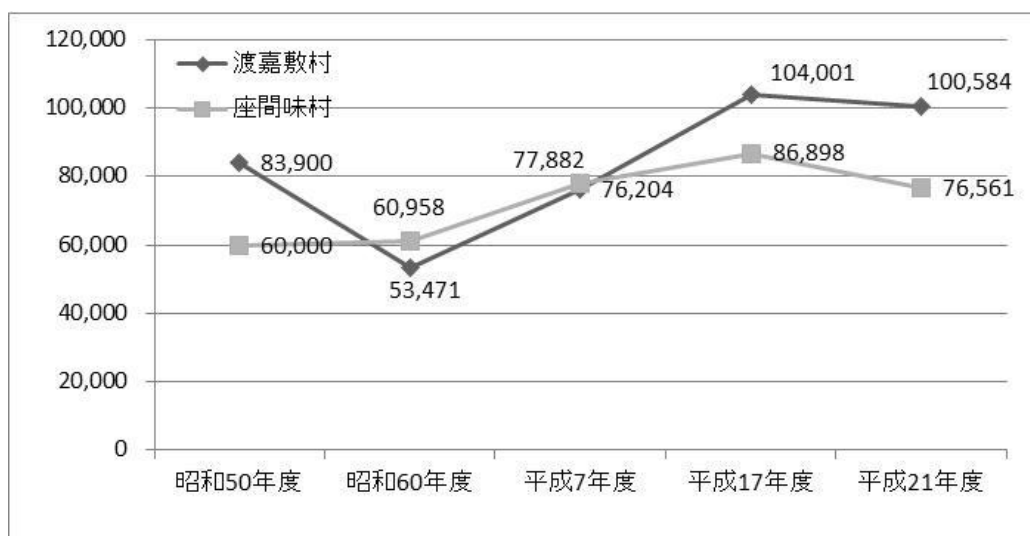
表1 慶良間諸島における祭祀等

村域	資源の名称	所在地	説明
渡嘉敷	海神祭	渡嘉敷島	海の神様を奉る海神宮で、島民の生活に豊かな恵みを与えてくれたことに感謝し、航海の安全を祈願する祭祀。旧暦の2月1日に行われる。
	爬竜船競漕	渡嘉敷島	毎年、旧暦の5月4日に行われる。長い歴史を持つ阿波連集落のハーリー（サバニと呼ばれる伝統漁船を使ったレース）は、子供たちも参加して、なごやかな雰囲気で行われる。
	大綱引き	渡嘉敷島	毎年、旧暦の6月25日に一期作で収穫された稲わらを持ち寄り、区民総出で東西に別れて朝から綱をない、縋りあわせて大綱を作りその日のうちに曳くのが古くからの習わしである。
座間味	浜下り	座間味島、阿嘉島、慶留間島	旧暦の3月3日に行われ、浜に下りて海に豊穰祈願する行事。併せて、干潮時に潮干狩りや釣りなどを楽しむ。
	御嶽登り（ウガンサギ）	座間味島、阿嘉島、慶留間島	各集落で由来の御嶽（拝所）を巡拝する行事。
	海神祭	座間味島、阿嘉島、慶留間島	旧暦9月に行われる大漁、航海安全を祈願する祭り。
	スクドーイ	阿嘉島	スク（アイゴの稚魚）の豊漁を祈願する独自の行事。青年が顔に墨を塗ってスクの代わりとなり、大人がそれを捕る網を広げ「スクドーイ（スクがきたぞー）」という合図で網をかぶせてつかまえるという演技をし、豊漁を祈願する。

## (2) 利用の現況

慶良間諸島を訪れる入込客（慶良間諸島各島への客数。島ごとに数える。）は、年間延べ177,145人（平成21年）である。慶良間諸島へは、空路による入込と海路による入込が可能だが、ほとんどの入込客が海路で来島する。海路は、泊（沖縄県那覇市）と渡嘉敷島、座間味島、阿嘉島をそれぞれ結んでおり、高速船であれば35分～1時間程度、フェリーであれば、1時間～2時間程度で来島することができる。空路は、那覇空港などからのチャーター便が座間味村外地島の慶良間空港に乗り入れており、那覇空港から約20分で来島することができる（文献4）。

各島の入込客数は、渡嘉敷100,584人、座間味島45,935人、阿嘉島26,797人、慶留間島3,829人となっている（平成21年度）。利用形態は、スキューバダイビング、シュノーケリング、シーカヤック、グラスボートによる海中景観探勝を体験するものが中心となっている。月別の状況では島によって大きな違いはなく、6月～8月に入込が最も多く、全体の41.3%がこの期間に訪れている。



資料：入域観光客数の推移「離島関係資料(平成24年1月)」(沖縄県)

近年、オニヒトデの大発生やスキューバダイビング等の利用によるサンゴの損傷が懸念されている。渡嘉敷村エコツーリズム推進協議会と座間味村エコツーリズム推進協議会(以下「両村の協議会」という。)がエコツーリズム推進法(平成19年6月27日法律第105号)に基づく全体構想を作成し、平成24年6月27日に関係省庁の認定を受けた。また、両村の協議会は、「慶良間地域エコツーリズムガイドライン」を策定し、利用者に適正な利用を呼びかけている。ガイドラインでは、これまでに各ダイビング協会や座間味村ホエールウォッチング協会が作成した自主ルールをもとに、一般の利用者が利用する際のルールや慶良間諸島の観光に関する事業者向けのルール等を記載している。現在は、地域が主体となって、全体構想に基づいた海域利用に関するルール作りの検討を進めるほか、サンゴ礁の持続可能な利用を目的として、自主的にオニヒトデの駆除やモニタリング等の活動が行われている。

エコツーリズムのプログラムとして実施されているものは、主にスキューバダイビング、シュノーケリング、シーカヤック等であり、海域の利用が中心となっている。スキューバダイビングのポイントは島の周辺に多数あり、船でポイントまで向かうことが多い。シュノーケリングは、渡嘉志久、阿波連、古座間味、阿真、北浜等のビーチから入るか、船でポイントまで向かう。各ビーチには、シャワー、トイレ等の施設が整備されている。また、ウラ海岸や儀志布島、黒島、前島、座間味島北側の浜や外地島等の自然海岸では、夏頃になると産卵に訪れるウミガメをスキューバダイビングやシュノーケリングで観察することができる。慶留間島等では国指定天然記念物のケラマジカを観察することができる。

さらに、12月～4月にかけては、ザトウクジラが繁殖のために慶良間諸島の周辺海域を訪れる。そのため、ホエールウォッチングが盛んに行われており、船からクジラの噴気や尾びれ等を観察することができる。座間味村ホエールウォッチング協会は、ザトウクジラ

の繁殖を保護することを目的として独自にホエールウォッチングのための自主ルールを策定している。利用者には、事前にクジラの生態等の解説や利用の際のルール等に関するレクチャーを実施している。座間味島の稲崎や高月山の展望台は、ザトウクジラの回遊の時期にホエールウォッチングのポイントとして多く利用されている。

陸域では、本地域の主要な展望地にも展望台や歩道、園地が設置されており、多島海景観や透明度の高い優れた海域景観を眺望できる。また、本地域は、地形・地質も特徴的である。こうした地形・地質の観察や野生生物の観察等の陸域における利用の推進も検討されている。

### (3) 社会経済的背景

#### ア 土地所有別

本区域は、公園区域 3,520ha（陸域）のうち、国有地 23ha（0.7%）、公有地 2,209ha（62.8%）、私有地 547ha（15.5%）、不明 739ha（21%）であり、公有地の本区域全体に占める割合が大きい。

#### イ 人口及び産業

慶良間諸島の人口は 1,603 人（平成 23 年 3 月）とされている（平成 24 年度離島関係資料、沖縄県）。島別に見ると、渡嘉敷島 701 人（約 43.7%）、前島 4 人（約 0.25%）、座間味島 578 人（約 36.1%）、阿嘉島 264 人（約 16.5%）、慶留間島 56 人（約 3.5%）となっている。

年齢構成は、15 歳未満約 17.2%、15～64 歳 61.5%、65 歳以上 21.4%となっており（平成 22 年国勢調査）、全国平均に比べて 15 歳未満（13.3%）の割合が高く、15～64 歳（63.7%）と 65 歳以上（23.01%）の割合が低い。

本土復帰（昭和 47 年）以前の沖縄では、海域利用の中心は漁業であり、慶良間地域では明治期から鰹漁業が行われ、島の一大産業として隆盛を極め、生産された鰹節は「ケラマ節」と呼ばれ高い評価を受けてきた。鰹漁業は昭和初期には南洋にも進出し、ますます盛んになったが、昭和 30 年代から鰹漁業者の後継者不足、餌となる魚の不漁、沖縄産鰹節の需要の低下などの理由を背景として衰退していった。

昭和 47 年に渡嘉敷島に「国立沖縄青年の家」（現国立沖縄青少年交流の家）が設立され、研修プログラムの海浜活動として海域を利用した体験プログラム等が行われるようになり、海域のレクリエーション利用はこの時期から本格化した。さらに、昭和 53 年に周辺の海域一帯が沖縄海岸国定公園に追加指定されたことを受けて、慶良間諸島の海が注目を浴びるようになった。

慶良間諸島全体の産業別就業者数の割合では第 3 次産業の割合（約 86.4%）が第 1 次産業（約 4.1%）、第 2 次産業（約 6.8%）を大きく上回っている（平成 22 年国勢調査）。ダイビングやホエールウォッチング等の海域を中心としたレジャー事業や飲食・宿泊業



などの観光業が中心であり、観光産業が本地域の主幹産業と見なすことができる。第1次産業では、漁業や稲作、野菜、畜産等の農業も行われている。

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(国有林)

種 類	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
潮害防備	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	6.0	不明
	沖縄県島尻郡座間味村地内	3.2	昭和31年5月29日 不明

(公有林)

種 類	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	221.5	昭和38年12月17日 昭和58年10月19日 昭和61年10月24日
	沖縄県島尻郡座間味村地内	44.7	昭和47年政令158号 平成21年2月6日
土砂流出防備	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	23.0	昭和58年10月19日
土砂崩壊防備	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	4.1	昭和58年10月19日
潮害防備	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	7.9	昭和52年12月19日 不明
	沖縄県島尻郡座間味村地内	74.5	昭和47年政令158号
干害防備	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	37.3	平成9年10月31日
	沖縄県島尻郡座間味村地内	123.3	昭和50年1月20日 不明
航行目標	沖縄県島尻郡座間味村地内	8.7	昭和47年政令158号
保健	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	58.2	不明
	沖縄県島尻郡座間味村地内	30.7	平成9年10月31日
風致	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	8.3	平成17年5月6日
	沖縄県島尻郡座間味村地内	94.9	不明

## (民有林)

種 類	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	0.1	昭和38年12月17日 昭和58年10月19日 昭和61年10月24日
	沖縄県島尻郡座間味村地内	0.1	昭和47年政令158号
土砂流出防備	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	0.9	平成21年12月18日 平成23年6月28日
		0.2	平成23年7月26日
土砂崩壊防備	沖縄県島尻郡座間味村地内	0.3	平成3年4月24日 平成22年6月22日
潮害防備	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	0.1	昭和52年12月19日 不明
	沖縄県島尻郡座間味村地内	4.3	昭和47年政令158号
干害防備	沖縄県島尻郡座間味村地内	0.6	昭和50年1月20日

## (イ) 鳥獣保護区

名 称	位 置	重複面積 (ha)	指定年月日
チービン鳥獣保護区 (特別保護地区)	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	48 (19)	平成24年11月1日
屋嘉比島鳥獣保護区 (特別保護地区)	座間味村	129 (129)	昭和49年11月14日

## (ウ) 史跡名勝天然記念物

区 分	名 称	位 置	指定年月日
国指定天然記念物	ケラマジカ及びその生息地	沖縄県島尻郡座間味村 屋嘉比島、慶留間島	昭和47年5月15日
国指定天然記念物	カラスバト	地域を定めず指定	昭和46年5月19日
国指定天然記念物	アカヒゲ	〃	昭和45年1月23日
国指定天然記念物	オカヤドカリ	〃	昭和45年11月12日
国指定天然記念物	リュウキュウヤマガメ	〃	昭和50年6月26日
県指定天然記念物	クロイワトカゲモドキ (マダラトカゲモドキ含む)	〃	昭和53年11月9日

国指定重要文化財	高良家住宅	沖縄県島尻郡座間味村字慶留間	昭和63年5月11日
県指定天然記念物	イボイモリ	地域を定めず指定	昭和53年11月9日
県指定天然記念物	ホルストガエル	〃	昭和60年3月29日
村指定文化財 (渡嘉敷)	根元家の石垣	沖縄県島尻郡 渡嘉敷村字渡嘉敷	平成8年12月3日
村指定文化財 (渡嘉敷)	旧日本軍特攻艇秘 匿壕	沖縄県島尻郡 渡嘉敷村阿波連	平成17年3月1日
村指定文化財 (渡嘉敷)	集団自決地	沖縄県島尻郡 渡嘉敷村字渡嘉敷	平成17年11月30日
村指定文化財 (渡嘉敷)	にし山(北山)山 頂から望む慶良間 海峡	沖縄県島尻郡 渡嘉敷村字渡嘉敷	平成17年3月1日
村指定文化財 (渡嘉敷)	新垣築兵衛由来の カジノキ群	沖縄県島尻郡 渡嘉敷村字渡嘉敷	平成15年11月1日
村指定文化財 (座間味)	阿嘉真謝原の「は る石」	沖縄県島尻郡 座間味村阿嘉	平成10年10月
村指定文化財 (座間味)	阿佐船頭殿の「石 垣」	沖縄県島尻郡 座間味村字阿佐	平成12年5月
村指定文化財 (座間味)	鰹漁業創始功労記 念碑	沖縄県島尻郡 座間味村字座間味	平成12年3月
村指定文化財 (座間味)	阿嘉御殿の「アカ テツ」	沖縄県島尻郡 座間味村字阿嘉	平成10年10月

(エ) 海岸保全区域

名 称	位 置	重複延長 (m)	指定年月日
座間味港	沖縄県島尻郡座間味村座間味	892	昭和51年12月13日
慶留間港	沖縄県島尻郡座間味村慶留間	417	昭和53年3月6日
阿護の浦港	沖縄県島尻郡座間味村阿佐	441	昭和54年12月18日
慶留間港	沖縄県島尻郡座間味村慶留間	108	昭和57年3月1日
慶留間港	沖縄県島尻郡座間味村慶留間	458	昭和62年1月20日
渡嘉敷港	沖縄県島尻郡渡嘉敷村渡嘉敷	366	平成4年10月2日

(オ) 河川区域(2級河川)

名 称	位 置	重複延長 (km)
渡嘉敷川	沖縄県島尻郡渡嘉敷村地内	2
内川	沖縄県島尻郡座間味村地内	1

3 公園区域

慶良間諸島国立公園の区域を、次のとおりとする。

(表 1 : 公園区域 (陸域) 表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	島尻郡渡嘉敷村 大字前島及び大字阿波連の全部並びに大字渡嘉敷の一部	1,892 国 21 公 1,124 私 304 不 443
	島尻郡座間味村 大字阿真の全部及び大字阿嘉、大字阿佐、大字慶留間及び大字座間味の各一部	1,628 国 4 公 1,085 私 243 不 296
	これら地域の地先海岸、地先島嶼及び地先岩礁を含む。	
	合計	3,520 国 25 公 2,209 私 547 不 739

(表 2 : 公園区域 (海域) 表)

区 域	面 積 (ha)
沖縄県 島尻郡渡嘉敷村及び座間味村の地先海面の一部	90,475

【参考文献】

- 1 環境省 日本のサンゴ礁 2004 日本サンゴ礁学会編
- 2 環境省 第4回自然環境保全基礎調査 1994
- 3 沖縄県文化環境部自然保護課 平成22年度サンゴ礁資源情報整備事業 2011
- 4 沖縄県企画部沖縄県地域離島課 離島関係資料 2012
- 5 岩尾研二 阿嘉島臨海研究所で行われた慶良間列島の海産動物相調査 2003 みどりいし(14)38-31
- 6 木崎甲子郎 慶良間諸島の生い立ち 1992 みどりいし(3)1-2
- 7 渡嘉敷村 座間味村 慶良間地域におけるエコツーリズム全体構想 2012
- 8 沖縄自然史研究会 沖縄海岸国定公園拡張候補地学術調査報告 1974
- 9 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立沖縄青少年交流の家 渡嘉敷島の自然と歴史〔第二版〕2012
- 10 伊澤雅子 慶良間諸島のシカ 1995 みどりいし(6) 29-31

慶良間諸島国立公園

公園計画書

平成26年3月5日

環境省





## 目 次

1	基本方針	1
2	規制計画	3
	(1) 保護規制計画	3
	ア 特別地域	3
	(ア) 特別保護地区	4
	(イ) 第1種特別地域	7
	(ウ) 第2種特別地域	10
	(エ) 第3種特別地域	14
	イ 海域公園地区	17
	ウ 関連事項	19
	(ア) 採取規制動植物	19
	(イ) 捕獲等規制動植物及び区域	20
	(ウ) 普通地域	22
	エ 面積内訳	23
3	施設計画	25
	(1) 保護施設計画	25
	(2) 利用施設計画	26
	ア 単独施設	26
	イ 道路	28
	(ア) 歩道	28

## 1 基本方針

慶良間諸島は、多様なサンゴ礁生態系、ザトウクジラの繁殖海域、ケラマブルーと称される透明度の高い海域、地殻変動に伴う沈降によって形成された多島海、サンゴを主体とした白い砂浜等、海から陸までの連続した多様な景観を有するとともに、それらと一体的な悠久の大地の歴史を刻む地形地質とその上に成り立つ島しょ亜熱帯生態系、長い歴史の中で育まれた民俗文化が色濃く反映された人文景観を有する地域である。

本国立公園のテーマを、「美ら海慶良間一海と島がつくるケラマブルーの世界」とし、サンゴ礁、多島海、海食地形、海食崖、砂浜、岩礁、鯨類の繁殖海域の景観要素から成る風致景観の保護を図るとともに適正な利用を推進するため、公園計画を定める。

### (1) 規制計画

#### ア 特別地域

##### (ア) 特別保護地区

座間味島北側の海岸、屋嘉比島、久場島の海岸部及び黒島、城島、ウン島、離島等は、ケラマブルーと称される透明度の高い海域等と多島海の景観と相まった優れた海域景観を有している。また、地形が急峻で、海食崖景観として最も優れた地域である。さらに、海岸部にはオキナワハイネズ等に代表される風衝地に特有の植生が発達し、海食崖と一体的な景観を成しており、これらの優れた景観を保護するため特別保護地区とする。

##### (イ) 第1種特別地域

嘉比島、安慶名敷島、伊積加積島等の周辺は、極めて透明度が高い海域景観と相まったサンゴのかけら等でできた白い砂浜景観、多島海の多様な海域景観を有している。また、海岸部のうち、渡嘉敷島北側海岸部、東側海岸部、儀志布島、中島、座間味島北部等は、顕著な海食地形を有している。これらの優れた風致を維持するため、第1種特別地域として保護する。

##### (ウ) 第2種特別地域

地形は急峻な海食崖と砂浜からなり、多様な海域景観を有している。また、斜面には本地域の風致を特徴付ける風衝地に特有の植生やアダン群落等が見られる。砂浜部分はウミガメの産卵場所となっている。こうした良好な風致を保護するため、第2種特別地域とする。

##### (エ) 第3種特別地域

島嶼の特徴的なリュウキュウマツの二次林を中心とする森林が広がっている。また、海岸部は、海岸線沿いは海食崖で、風衝地に特有の植生が発達している。当該地の自然環境と山地等を利用して営まれている水田や畑等の農林業がおりなす風致の維持を図るため、第3種特別地域とする。

#### (オ) 海域公園地区

当該地域は、極めて高い透明度の海域であり、国内有数の多様なサンゴ礁生態系を有するとともに、ザトウクジラの繁殖海域としても知られている。また多数のウミガメが確認されており、海岸沿いでは産卵が確認されている。こうした造礁サンゴ、ソフトコーラル類、海藻類、魚類等によるサンゴ礁生態系を中心とした優れた海中景観をみせる水深 30 メートル以浅の海域に海域公園地区を設定し、重点的に保護する。

#### (カ) 普通地域

海域公園地区周辺のザトウクジラの繁殖海域として重要とされる海域（慶良間諸島の汀線からおよそ 7 km）については普通地域とする。また、地域住民の生活基盤である集落地域及びその隣接地、慶伊瀬島（けいせいせじま 神山島、かみやまじま ナガンヌ島及びクエフ島）は、宿泊施設や商店、マリンレジャー等に関する施設等がある既存の民間事業の活動域であり、特別地域をとりまく風景の保全を図る。

### (2) 施設計画

#### (ア) 単独施設

本地域に特徴的なサンゴ礁生態系やクジラをはじめとする海域景観、多島海と透明度の高い海域景観を採勝するための各種計画を適切に配置するほか、これらの海域景観を活用した環境教育や自然学習が行われている拠点を計画として位置づける。また、当該地域において既に整備されているキャンプ場、宿泊施設等で公園利用に資する施設を計画として位置づける。オニヒトデによる食害や白化等によりサンゴ礁の衰退が懸念される地域又は既に衰退している地域は、サンゴ礁の自然再生施設を計画として位置づける。

#### (イ) 道路

多島海と透明度の高い海域景観の採勝、島しょ地域の特徴的な亜熱帯の動植物等にふれあうことを目的とする歩道を計画として位置づける。また利用拠点間を連絡するための歩道を計画し、利用拠点間の交流を進める。

2 規制計画

(1) 保護規制計画

ア 特別地域

次の区域を、特別地域とする。

(表1：特別地域総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	島尻郡渡嘉敷村 大字前島の全部並びに大字阿波連 <sup>あはれん</sup> 及び大字渡嘉敷の各一部	1,739 国 20 公 1,050 私 262 不 407
	島尻郡座間味村 大字阿嘉 <sup>あき</sup> 、大字阿佐 <sup>あさ</sup> 、大字阿真 <sup>あま</sup> 、大字慶留間及び大字座間味の各一部	1,528 国 4 公 1,052 私 189 不 283
合 計		3,267 国 24 公 2,102 私 451 不 690

(ア) 特別保護地区

特別地域のうち、次の区域を特別保護地区とする。

(表 2 : 特別保護地区総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	島尻郡渡嘉敷村 大字渡嘉敷の一部	39 〔 国 0 〕 公 31 私 0 不 8
	島尻郡渡嘉敷村 大字阿波連の一部	38 〔 国 0 〕 公 34 私 1 不 3
	島尻郡座間味村 大字阿佐、大字阿真及び大字座間味の各一部	59 〔 国 0 〕 公 25 私 3 不 31
	島尻郡座間味村 大字阿嘉及び大字慶留間の各一部	169 〔 国 0 〕 公 136 私 0.2 不 33
合 計		305 〔 国 0 〕 公 226 私 4 不 75

(表3：特別保護地区内訳表)

名 称	区 域	地 区 の 概 要	面積 (ha)
黒島、城島	島尻郡渡嘉敷村 大字渡嘉敷の一部並びにこれら の地先海岸、地先島しょ及び岩礁	海岸線は、急峻な海食崖地形であり、崖部分には慶良間地域に特徴的な風衝地に特有の植生が発達し、その景観は雄大である。多島海景観を形成する一部となっており、アジサシ類の繁殖地にもなっていることから、厳正に保護を図る必要がある。	39 国 0 公 31 私 0 不 8
離島、ウン島	島尻郡渡嘉敷村 大字阿波連の一部並びにこれら の地先海岸、地先島しょ及び岩礁	海岸線は、急峻な海食崖地形であり、崖部分には慶良間地域に特徴的な風衝地に特有の植生が発達している。多島海景観を形成する一部となっており、アジサシ類の繁殖地でもある。さらに周辺海域は非常に透明度が高く、豊富なサンゴ礁が広がっていることから、厳正に保護を図る必要がある。	38 国 0 公 34 私 1 不 3
座間味島北部、 男岩、北平瀬、ン ナザチの崎	島尻郡座間味村 大字阿佐、大字阿真及び大字座間 味の各一部並びにこれらの地先 海岸、地先島しょ及び岩礁	海岸線は急峻な海食崖地形であり、崖部分には慶良間地域に特徴的な風衝地に特有の植生が発達し、その景観は雄大である。数多くの岩礁等が存在しており、アジサシ類の繁殖地になっているとともに、多島海景観の一部となっている。また、さらに周辺海域は非常に透明度が高く、豊富なサンゴ礁が広がっていることから、厳正に保護を図る必要がある。	59 国 0 公 25 私 3 不 31

名瀬、 <sup>さくばる</sup> 佐久原の鼻、 モカラク島、 <sup>お</sup> 奥 武島、 <sup>うじま</sup> 久場島、 <sup>くばじま</sup> 屋嘉 比島 <sup>びじま</sup>	島尻郡座間味村 大字阿嘉及び大字慶留間の各一 部並びにこれらの地先海岸、地先 島しょ及び岩礁	海岸線は、急峻な海食崖地形で、斜面には慶 良間地域に特徴的な風衝地に特有の植生が発 達している。砂浜はウミガメの産卵場となっ ている。また、屋嘉比島は、本地域で唯一の大型 哺乳類であるケラマジカが生息しており、ケラ マジカとともにその生息場所として国指定天 然記念物に指定されているほか、カラスバト等 の希少な鳥類の生息も確認されている。周辺海 域は非常に透明度が高く、豊富なサンゴ礁が広 がっていることから、厳正に保護を図る必要が ある。	169 [ 国 0 ] 公 136 私 0.2 不 33 ]
合 計			305 [ 国 0 ] 公 226 私 4 不 75 ]

(イ) 第1種特別地域

次の区域を第1種特別地域とする。

(表4：第1種特別地域総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	島尻郡渡嘉敷村 大字前島の一部	31 〔 国 1 〕 公 19 私 5 不 6
	島尻郡渡嘉敷村 大字渡嘉敷の一部	82 〔 国 0 〕 公 40 私 34 不 8
	島尻郡渡嘉敷村 大字渡嘉敷及び大字阿波連の各一部	29 〔 国 0 〕 公 13 私 0 不 16
	島尻郡座間味村 大字阿嘉、大字阿佐、大字阿真、大字慶留間及び大字座間味の各一部	38 〔 国 1 〕 公 17 私 8 不 12
合 計		180 〔 国 2 〕 公 89 私 47 不 42



(表5：第1種特別地域内訳表)

名 称	区 域	地 区 の 概 要	面積(ha)
中島・ハテ島	島尻郡渡嘉敷村 大字前島の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	海岸線は、急峻な海食崖地形とサンゴ砂やホシズナ等の白い砂浜からなる。また、崖部分には、風衝地に特有の植生が発達している。近海はサンゴ礁が発達しており、透明度が高く、多様な海域景観を有している。	31 国 1 公 19 私 5 不 6
儀志布島 渡嘉敷島北部	島尻郡渡嘉敷村 大字渡嘉敷の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	海岸線は、急峻な海食崖地形とサンゴ砂やホシズナの白い砂浜からなる。崖部分には、風衝地に特有の植生が発達している。近海はサンゴ礁が発達しており、透明度が高く、多様な海域景観を有している。	82 国 0 公 40 私 34 不 8
渡嘉敷島東部	島尻郡渡嘉敷村 大字渡嘉敷及び大字阿波連の一部並びにこれらの地先海岸	地形が急峻で、海食地形が発達しており、全体的に風衝地である。オキナワハイネズ群落などの慶良間地域で特徴的な植生を示す。	29 国 0 公 13 私 0 不 16
座間味 嘉比島 安慶名敷島 伊積加積島 慶留間島	島尻郡座間味村 大字阿嘉、大字阿佐、大字阿真、大字慶留間及び大字座間味の各一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	地形が急峻で、海食地形が発達しており、全体的に風衝地である。オキナワハイネズ群落などの慶良間地域に特徴的な植生を示す。近海は、非常に透明度が高く、慶良間地域で最大級のサンゴ礁が発達しており、多様な海域景観を有する。	38 国 1 公 17 私 8 不 12

合 計	180
	〔 国 2 〕
	公 89
	私 47
	不 42 〕

(ウ) 第2種特別地域

次の区域を第2種特別地域とする。

(表6：第2種特別地域総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	島尻郡渡嘉敷村 大字渡嘉敷の一部	63 〔 国 1 〕 公 60 私 0.5 不 1
	島尻郡渡嘉敷村 大字阿波連の一部	68 〔 国 0 〕 公 62 私 2 不 4
	島尻郡座間味村 大字阿佐及び大字座間味の各一部	115 〔 国 0 〕 公 42 私 29 不 44
	島尻郡座間味村 大字阿嘉の一部	72 〔 国 0 〕 公 62 私 4 不 6
	島尻郡座間味村 大字慶留間の一部	94 〔 国 0 〕 公 63 私 18 不 13
	島尻郡座間味村 大字阿嘉及び大字阿真の各一部	142 〔 国 0 〕 公 140 私 0 不 2

合 計	554
	国 1
	公 429
	私 54
	不 70

(表7：第2種特別地域内訳表)

名 称	区 域	地 区 の 概 要	面積 (ha)
渡嘉敷地区	島尻郡渡嘉敷村 大字渡嘉敷の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	赤間山の国立沖縄青少年交流の家の南側の地区である。リュウキュウマツの二次林が優占し、谷あいにはスダジイ林が広がる。	63 国 1 公 60 私 0.5 不 1
阿波連地区	島尻郡渡嘉敷村 大字阿波連の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	阿波連ビーチの南側にかけての地区である。植生は島の風致を特徴付けるリュウキュウマツ、オキナワシャリンバイの風衝林が主体をなしている。	68 国 0 公 62 私 2 不 4
座間味地区	島尻郡座間味村 大字阿佐及び大字座間味の各一部並びにこれらの地先海岸	海岸線の地形は急峻な海食崖と砂浜からなる。斜面には慶良間地域に特徴的な風衝地に特有の植生が発達し、多様な海域景観を有している。また、丘陵部ではリュウキュウマツの二次林が主体をなしている。	115 国 0 公 42 私 29 不 44
阿嘉地区	島尻郡座間味村 大字阿嘉の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	地形は急峻な海食崖からなる地区である。風衝地に特有の植生が発達し、崖地域ではアダン群落、内陸部ではリュウキュウマツの二次林が主体をなし、亜熱帯に特徴的な植生がみられる。また、国指定天然記念物のケラマジカが生息している。	72 国 0 公 62 私 4 不 6

慶留間島地区	島尻郡座間味村 大字慶留間の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	海岸線は急峻な海食崖からなり、風衝地に特有の植生が発達している。内陸部はリュウキュウマツの二次林が主体をなしおり、一部でタブノキやスダジイがみられる。また、国指定天然記念物のケラマジカが生息している。	94 国 0 公 63 私 18 不 13
久場島、屋嘉比島地区	島尻都座間味村 大字阿嘉及び大字阿真の各一部並びにこれらの地先海岸	特別保護地区（久場島、屋嘉比島地区）にとり囲まれた地区である。植生はリュウキュウマツ、アダン群落、アカテツーハマビワ群集の海岸風衝低木群落等がみられる。砂浜はウミガメの産卵場となっている。屋嘉比島には国指定天然記念物のケラマジカが生息している。	142 国 0 公 140 私 0 不 2
合		計	554 国 1 公 429 私 54 不 70

(エ) 第3種特別地域

次の区域を第3種特別地域とする。

(表8：第3種特別地域総括表)

都道府県名	区 域	面 積(ha)
沖縄県	島尻郡渡嘉敷村 大字前島の一部	166 〔 国 5 〕 公 77 私 56 不 28
	島尻郡渡嘉敷村 大字阿波連及び大字渡嘉敷の各一部	1,223 〔 国 13 〕 公 714 私 163 不 333
	島尻郡座間味村 大字阿佐、大字阿真及び大字座間味の各一部	494 〔 国 3 〕 公 290 私 86 不 115
	島尻郡座間味村 大字阿嘉の一部	274 〔 国 0 〕 公 218 私 38 不 18
	島尻郡座間味村 大字慶留間の一部	71 〔 国 0 〕 公 59 私 3 不 9
	合 計	2,228 〔 国 21 〕 公 1,358 私 346 不 503

(表9：第3種特別地域内訳表)

名 称	区 域	地 区 の 概 要	面積 (ha)
前島地区	島尻郡渡嘉敷村 大字前島の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	前島全地区と中島、ハテ島の各一部地区である。植生はリュウキュウマツの二次林が主体をなしている。	166 国 5 公 77 私 56 不 28
渡嘉敷地区	島尻郡渡嘉敷村 大字阿波連及び大字渡嘉敷の各一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	渡嘉敷島の約 1/3 を占める地区である。内陸部は地形が険しく変化に富んだ地区である。植生はリュウキュウマツの二次林とスダジイ林が広範囲に広がる。また、島の南部や海岸線沿いには島の風衝景観を特徴付けるビロウ林、矮性マツ林等がみられる。一部では、本地域の自然環境と山地等を利用して営まれる水田や畑等の農林業がおりなす景色がみられる。	3 1,223 国 13 公 714 私 163 不 333
座間味地区 嘉比島 安慶名敷島 安室島	島尻郡座間味村 大字阿佐、大字阿真及び大字座間味の各一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	座間味島の南部地区。海岸線は海食崖で、風衝地に特有の植生が発達、内陸部は険しい山地地形で変化に富んだ地区である。植生は主にリュウキュウマツの二次林が大部分をしめる。座間味島の南側の海岸には海浜植生が発達している。一部では、本地域の自然環境と山地等を利用して営まれている畑や果樹等の農林業がおりなす景色がみられる。	494 国 3 公 290 私 86 不 115



		海岸沿いには、サンゴ砂の白い砂浜が広がる。古座間味、阿佐等の周辺海岸の周辺海域は、透明度が高く、多様なサンゴや魚類が生息しており、ウミガメが頻繁に観察される。	
阿嘉地区	島尻郡座間味村 大字阿嘉の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	阿嘉島の南部地区。海岸線は海食崖で、風衝地に特有の植生が発達、内陸部はけわしい山地地形で変化に富んだ地区である。植生は主にリュウキュウマツの二次林が大部分をしめる。一部では、本地域の自然環境と山地等を利用して営まれている畑等の農林業がおりなす景観がみられる。海岸沿いの一部にはサンゴ砂の白い砂浜が広がり、特に北浜の周辺では、砂浜と透明度の高い青い海の景色がみられる。周辺海域は透明度が高く豊富なサンゴ礁が広がり、ウミガメも頻繁に観察される。また、国指定天然記念物のケラマジカが生息している。	274 国 0 公 218 私 38 不 18
外地島地区	島尻郡座間味村 大字慶留間の一部並びにこれらの地先海岸、地先島しょ及び岩礁	外地島海岸線の地区である。海食崖地形であり、慶良間地域で特徴的な風衝地に特有の植生の発達した地区である。植生はアダン群落が主体をなしている。また、国指定天然記念物のケラマジカが多く生息している。	71 国 0 公 59 私 3 不 9

合 計	2,228
	国 21
	公 1,358
	私 346
	不 503

イ 海城公園地区

海城公園地区を次のとおりとする。

(表 10：海城公園地区表)

番号	名 称	位 置	地 区 の 概 要	面積 (ha)
1	慶良間諸島 海城公園地区	沖縄県鳥尻郡渡嘉敷村 大字阿波連、大字渡嘉敷及 び大字前島地先 沖縄県鳥尻郡座間味村 大字阿嘉、大字阿佐、大字 阿真、大字慶留間及び大字 座間味地先	<p>本地区は、透明度が高く、高密度にサンゴ礁が発達し、美しい海域景観を有している。海中にはテーブル状、枝状、角状、塊状、被覆状等の造礁サンゴが分布しており、248種のサンゴが確認されている。これらは、沖縄島等のサンゴの供給源としても非常に重要な地域である。</p> <p>また、これらのサンゴ礁を中心とした生態系は、生物種が豊富であり、魚類が360種、造礁サンゴを含む無脊椎動物が約1,640種、海草類が約220種確認されている。</p> <p>さらに、冬期は毎年ザトウクジラが繁殖のために本地域の海域を訪れるとともに、ミンククジラ、マッコウクジラ、シロハイルカ、ハンドウイルカ、オキゴンドウ等が確認されるなど、他の鯨類にとっても生息域となっている。また、スズメダイ科、チョウチョウウオ科、ベラ科、ブダイ科等の色彩豊かなサンゴ礁特有の魚類やアオウミガメ等が生息し、大型のイトマキエイも見られるなど、年間を通して多様な海洋生物がみられる地域である。</p> <p>また、本地域は世界有数のマリンレジャースポットであり、スキューバダイビングやシュノーケリング等の利用が盛んである。さらに、ザトウクジラの回遊時期には、ホエールウォッチングも行われている。</p>	8,290

ウ 関連事項

(ア) 採取規制動植物

採取又は損傷を規制する植物を次のとおりとする。

(表 11：採取等規制植物表)

科名	種名
マツバラ	マツバラ
イワヒバ	イワヒバ
ヘゴ	ヘゴ
ウラボシ	コウラボシ
ヒノキ	オキナワハイネズ
イラクサ	ヤナギバモクマオ
モウセンゴケ	コモウセンゴケ
バラ	テンノウメ
マメ	イソフジ
ミソハギ	ミズガンピ
ツツジ	ケラマツツジ
イソマツ	ウコンイソマツ
リンドウ	シマセンブリ
ムラサキ	モンパノキ
シソ	ヒメキランソウ
キク	モクビャクコウ
ユリ	テッポウユリ
ヒガンバナ	キンバイザサ
ラン	オキナワチドリ、ツルラン、オキナワイモネヤガラ、キンギンソウ、ムカゴソウ、ユウコクラン、ボウラン、カクチョウラン、ヤンバルキヌラン





(イ) 捕獲等規制動植物及び区域

海域公園地区において、採集を規制する動植物は次のとおりである。

(表 12 動植物一覧表)

名称	区域	面積 (ha)	捕獲等規制動植物
慶良間諸島 海域公園地区	慶良間諸島海 域公園地区の うち、チービ シ及び前島周 辺海域を除く 区域(東経 127 度 26 分の経度 線以西に 位置する海域 公園地区)	5,307	ハネウミヒドラ科、ヤギモドキウミヒドラ科、ハネガヤ科、アナサンゴモドキ科、サン ゴモドキ科、クダサンゴ科、ウミアザミ科、ウミトサカ科、チヂミトサカ科、タイマツ トサカ科、アオサンゴ科、ウスカワヤギ科、イソバナ科、トゲヤギ科、ホソヤギ科、ム チヤギ科、イソギンチャクモドキ科、ウメボシイソギンチャク科、ケイトウイソギンチ ャク科、ハナブサイソギンチャク科、ニチリンイソギンチャク科、ハタゴイソギンチャ ク科、セトモノイソギンチャク科、ムカシサンゴ科、ハナヤサイサンゴ科、ミドリイシ 科、ハマサンゴ科、ヤスリサンゴ科、ヒラフキサンゴ科、クサビライシ科、ビワガライ シ科、ウミバラ科、オオトゲサンゴ科、サザナミサンゴ科、キクメイシ科、ヒユサンゴ 科、チョウジガイ科、キササンゴ科、マメスナギンチャク、センナリスナギンチャク科、 ウミカラマツ科、ハナギンチャク科、ホラガイ、アカヒトデ、アオヒトデ、マンジュウ ヒトデ、コブヒトデ、ナガウニ、パイプウニ、オニイトマキエイ、クリミミズアナゴ、 タツノオトシゴ、フタスジタマガシラ、ツノハタタテダイ、ミナミハタタテダイ、オニ ハタタテダイ)、シマハタタテダイ、ハタタテダイ、フエヤッコダイ、ヤリカタギ、ス ミツキトノサマダイ、トゲチョウチョウウオ、レモンチョウチョウウオ、セグロチョウ チョウウオ、ウミヅキチョウチョウウオ、イッテンチョウチョウウオ、トノサマダイ、 ミカドチョウチョウウオ、チョウハン、シチセンチョウチョウウオ、カガミチョウチ ョウウオ、フウライチョウチョウウオ、ミスジチョウチョウウオ、ニセフウライチョウ ョウウオ、ハナグロチョウチョウウオ、オウギチョウチョウウオ、スダレチョウチ ョウウオ、アケボノチョウチョウウオ、アミチョウチョウウオ、チョウチョウウオ、ミゾレ

			<p>         チョウチョウウオ)、ゴマチョウチョウウオ、サラサゴンベ、イソゴンベ)、メガネゴンベホシゴンベ、セジロクマノミ、ハナビラクマノミ、ハマクマノミ、カクレクマノミ、クマノミ、トウアカクマノミ、ササズメダイ、マツバスズメダイ、ヒメズメダイ、ヒレグロスズメダイ、マルズメダイ、キホシズメダイ、デバスズメダイ、アオバスズメダイ、タカサゴズメダイ、モンズズメダイ、フタスジリュウキュウスズメダイ、ミスジリュウキュウスズメダイ、オキナワズメダイ、ハクセンスズメダイ、ルリホシズメダイ、ルリメイシガキズメダイ、イシガキズメダイ、シマズメダイ、イソズメダイ、ズメダイモドキ、セナキルリスズメダイ、レモンズメダイ、イチモンズズメダイ、ルリスズメダイ、スジブチズメダイ、ネズズメダイ、ミヤコキセンスズメダイ、クラカオズメダイ、ナミスズメダイ、クロスズメダイ、ヒレナガスズメダイ、フィリピンズズメダイ、アサドズメダイ、オジロスズメダイ、メガネスズメダイ、ソラスズメダイ、モンツキズメダイ、ナガサキズメダイ、クロメガネスズメダイ、ネッタイスズメダイ、ニセネッタイスズメダイ、フチドリズメダイ、キオビスズメダイ、クロソラスズメダイ、セダカズメダイ、ホンソメワケベラ、ソメワケベラ、イトヒキベラ属、ニジギンポ、ケショウハゼ、キンセンハゼ、サラサハゼ、キイロサンゴハゼ、アカテンコバンハゼ、ホムラハゼ、オドリハゼ、ヤシヤハゼ、ヒレナガネジリンボウ、ギンガハゼ、ハタタテシノビハゼ、ニチリンダテハゼ、クビアカハゼ、パンダダルマハゼ、オトメハゼ、アカハチハゼ、オヨギイソハゼ、ハタタテハゼ、アケボノハゼ、シコンハタタテハゼ、ゼブラハゼ、ハナハゼ、オグロクロユリハゼ、クロユリハゼ、ノコギリハギ、クロハコフグ、ミナミハコフグ、ヒロオウミヘビ、エラブウミヘビ、イイジマウミヘビ       </p>
--	--	--	--



(ウ) 普通地域

普通地域の区域は、次のとおりである。

(表 13：普通地域（陸域）)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)								
沖縄県	島尻郡渡嘉敷村 大字阿波連及び大字渡嘉敷の各一部	153 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>国</td><td>1</td></tr> <tr><td>公</td><td>74</td></tr> <tr><td>私</td><td>42</td></tr> <tr><td>不</td><td>36</td></tr> </table>	国	1	公	74	私	42	不	36
	国	1								
公	74									
私	42									
不	36									
	島尻郡座間味村 大字阿嘉、大字阿佐、大字阿真、大字慶留間及び大 字座間味の各一部	100 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>国</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>公</td><td>33</td></tr> <tr><td>私</td><td>54</td></tr> <tr><td>不</td><td>13</td></tr> </table>	国	0.1	公	33	私	54	不	13
国	0.1									
公	33									
私	54									
不	13									
陸域合計		253 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>国</td><td>1</td></tr> <tr><td>公</td><td>107</td></tr> <tr><td>私</td><td>96</td></tr> <tr><td>不</td><td>49</td></tr> </table>	国	1	公	107	私	96	不	49
国	1									
公	107									
私	96									
不	49									
陸域の公園区域の地先海域		82,185								
合 計		82,438								

エ 面積内訳

(ア) 地域地区別土地所有面積

(表 14 : 地域地区別土地所有面積総括表)

(単位 : 面積 ha、比率%)

地 域 区 分		特別地域																普通地域 (陸域)				合 計 (陸域)				海域公園 地区 ※	普通地域 (海域)※	合計 (海域)※			
		特別保護地区				第 1 種				第 2 種				第 3 種																	
土 地 所 有 別		国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不						
沖 縄 県	土地所有 別面積	0	226	4	75	2	89	47	42	1	429	54	70	21	1,358	346	503	1	107	96	49	25	2,209	547	739						
	地種区分 別面積 (比率)					180 (5.1)				554 (15.7)				2,228 (63.3)																	
	地域地区 別面積 (比率)	305 (8.7)																				2,962 (84.1)									
	地域別 面積 (比率)																	3,267 (92.8)				253 (7.2)				3,520 (100.0)				1ヶ所 8,290	82,185

※海域公園地区と普通地域（海域）の面積の合計値の十の位を四捨五入したもの。

(表 15 : 地域地区別市町村別面積総括表)

(単位 : ha)

地域地区		特別地域					普通地域 (陸域)	合計 (陸域)	海域公園 地区※	普通地域 (海域)※	合計 (海域)※
市町村名		特保	第1種	第2種	第3種	小計					
沖縄 県	渡嘉敷村	77	142	131	1,389	1,739	153	1,892			
	座間味村	228	38	423	839	1,528	100	1,628			
合計		305	180	554	2,228	3,267	253	3,520	1ヶ所 8,290	82,185	90,475

※海域公園地区と普通地域（海域）の面積の合計値の十の位を四捨五入したもの。

### 3 施設計画

#### (1) 保護施設計画

保護施設計画を次のとおりとする。

(表 16 : 保護施設表)

番号	種類	位置	整備方針	告示年月日
1	自然再生施設	島尻郡渡嘉敷村及び同村地先	本地域では、オニヒトデによる食害や白化により、サンゴが減少していることから、サンゴ礁生態系の基盤をなすサンゴ群集を保全・再生する。特にサンゴの減少が著しい地域において、サンゴの移植等により、サンゴ群集等の再生を図るとともに、オニヒトデやシロレイシガイダマシ等の食害を防ぐための保全措置を行う。	新規
2	自然再生施設	島尻郡座間味村及び同村地先	本地域では、オニヒトデによる食害や白化により、サンゴが減少していることから、サンゴ礁生態系の基盤をなすサンゴ群集を保全・再生する。特にサンゴの減少が著しい地域において、サンゴの移植等により、サンゴ群集等の再生を図るとともに、オニヒトデやシロレイシガイダマシ等の食害を防ぐための保全措置を行う。	新規



(2) 利用施設計画

ア 単独施設

単独施設を次のとおりとする。

(表 17：単独施設表)

番号	種類	位置	整備方針	告示年月日
1	博物展示施設	沖縄県島尻郡渡嘉敷村（渡嘉敷）	渡嘉敷地域の陸域や海域、特にサンゴ礁等を中心とした学習及び国立公園の総合案内のための博物展示施設として整備する。	新規
2	園地	沖縄県島尻郡渡嘉敷村（渡嘉志久）	渡嘉敷島渡嘉志久海岸及び周辺地域における自然探勝のための園地として整備する。また、渡嘉志久海岸は、サンゴ砂の砂浜が広がり、透明度が高く、多様なサンゴや魚類を観察できることから、シュノーケリング等の海域利用のため、シャワー、休憩所、トイレ等を整備する。	新規
3	園地	沖縄県島尻郡渡嘉敷村（照山）	渡嘉敷島照山からの展望利用及び周辺地域の自然探勝のための園地を整備する。	新規
4	園地	沖縄県島尻郡渡嘉敷村（阿波連海岸）	渡嘉敷島阿波連海岸及び周辺地域の自然探勝のための園地として整備する。また、阿波連海岸は、サンゴ砂の砂浜が広がり、透明度が高く、多様なサンゴや魚類を観察できることから、シュノーケリング等の海域利用のため、シャワー、休憩所、トイレ等を整備する。	新規
5	園地	沖縄県島尻郡渡嘉敷村（阿波連岬）	阿波連岬からは海食景観や透明度の高い海域景観を眺望することができるため、展望利用及び周辺地域の自然探勝のための園地として岬までの歩道、駐車場、休憩所、トイレ等を整備する。	新規
6	園地	沖縄県島尻郡座間味村（チシ）	座間味島チシからの展望利用及び周辺地域の自然探勝のための園地として「整備する。	新規
7	園地	沖縄県島尻郡座間味村 （ <small>ンナザチ</small> 稲崎）	座間味島 <small>ンナザチ</small> 稲崎からは周辺海域が一望でき、ザトウクジラの観察に適しており、頻繁に観察されることから、展望利用のための園地として整備する。	新規

8	園地	沖縄県島尻郡座間味村（高月山）	座間味島高月山からの展望利用及び周辺地域の自然探勝のための園地として整備する。また、高月山からは、ザトウクジラが観察できることから、観察するための休憩所等を整備する。	新規
9	博物展示施設	沖縄県島尻郡座間味村（座間味）	座間味地域の陸域や海域、特にサンゴ礁等を中心とした学習及び国立公園の総合案内のための博物展示施設として整備する。	新規
10	園地	沖縄県島尻郡座間味村（神の浜）	座間味島神の浜からの展望利用及び周辺地域の自然探勝のための園地として整備する。	新規
11	野営場	沖縄県島尻郡座間味村（阿真）	座間味島阿真海岸はサンゴ砂の砂浜が広がり、ウミガメも頻繁に観察される。このような周辺自然環境を活かした探勝利用等のための野営場として整備する。	新規
12	園地	沖縄県島尻郡座間味村（古座間味）	座間味島古座間味地域の自然海岸周辺の自然探勝のための園地として整備する。また、古座間味の海岸は、サンゴ砂の砂浜が広がり、透明度の高い海域で多様なサンゴや魚類等観察できることから、シュノーケリング等の海域利用のため、シャワー、トイレ等を整備する。	新規
13	園地	沖縄県島尻郡座間味村（北浜）	阿嘉島北浜ビーチ及び周辺地域の自然探勝のための園地として整備する。	新規
14	園地	沖縄県島尻郡座間味村（クボー岳）	阿嘉島クボー岳からの展望利用及び周辺地域の自然探勝のための園地として整備する。	新規
15	園地	沖縄県島尻郡座間味村（越原）	阿嘉島越原地域からの展望利用及び周辺地域の自然探勝のための園地として整備する。	新規
16	園地	沖縄県島尻郡座間味村（阿嘉）	阿嘉及び慶留間地域の陸域や海域を利用するための案内所、休憩所等の施設園地として整備する。	新規
17	園地	沖縄県島尻郡座間味村（慶留間）	慶留間島からの展望利用及び周辺地域の自然探勝のための園地としてする。	新規

イ 道路

(ア) 歩道

歩道を次のとおりとする。

(表 18：道路（歩道）表)

番号	路線名	区 間	主要経過地	整備方針	告示年月日
1	阿波連－渡嘉志久線	起点－沖縄県島尻郡渡嘉敷村 (阿波連) 終点－沖縄県島尻郡渡嘉敷村 (渡嘉志久)		渡嘉志久と阿波連のサンゴ礁を有する透明度の高い海域景観及びその周辺陸域の亜熱帯植生の自然探勝歩道として整備する。	新規
2	見花－大見座線	起点－沖縄県島尻郡渡嘉敷村 (阿波連) 終点－沖縄県島尻郡渡嘉敷村 (阿波連)		サンゴ礁を有する透明度の高い海域景観、海食景観、風衝地に特有の植生等の景観を探勝する歩道として整備する。	新規
3	阿嘉西海岸線	起点－沖縄県島尻郡座間味村 (阿嘉) 終点－沖縄県島尻郡座間味村 (阿嘉)		阿嘉島北海岸線において、サンゴ礁を有する透明度の高い海域景観及び周辺の亜熱帯植生やケラマジカ等自然を探勝する歩道として整備する。	新規
4	慶留間御岳線	起点－沖縄県島尻郡座間味村 (慶留間) 終点－沖縄県島尻郡座間味村 (慶留間)		慶留間島の集落から展望施設を經由し、慶留間島内の森林内を通り、海域景観の展望と亜熱帯植生等の慶留間島の自然探勝歩道として整備する。	新規